

御堂筋の将来ビジョン策定へ向けて
緑陰とにぎわいの街路づくり



2017年11月

一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク

御堂筋まちづくりネットワークは、淀屋橋、本町エリアの不動産オーナーが中心となり、2001年12月に設立されました。以来、エリア価値向上へ向けて時代に則した課題、テーマを検討、試行してまいりました。近年では、**エリア防災の検討**に着手するほか、本年7月に**一般社団法人へ移行**し、持続可能な体制の充実化等に取り組んでおります。

御堂筋まちづくりネットワークは、設立以来、御堂筋を**“安全に安心してそぞろ歩ける快適な歩行者空間”**としていくことによりエリア価値の向上を目指しています。

御堂筋完成80周年にあたる本年度は、御堂筋を**“車の道から人のみちへ”** 転換していくとのスローガンのもと、その将来像に関する議論が官民で進んでいます。

この機会に、御堂筋まちづくりネットワークでは、2004年に作成した街路空間再編への提言『緑陰とにぎわいの街路づくり』を改めて見直し、現状に則した部分改訂を致しました。

新たに**“御堂筋の広場化”**というテーマを加え、街路ににぎわい、憩いの機能、空間を挿入することを提案しています。各機能、要素の構成、配置等、より具体的な道路断面構成の整理、構築等については、今後、関係者の皆様との意見交換に加わり、ともに検討してまいりたいと思います。

何卒ご高覧いただき、実現へ向けご理解、ご支援を賜りますと幸いです。

街路空間の再編を通じて、次のようなことを期待しています。

1. 広域なエリアでネットワーク強化を考え 市域全体のポテンシャルアップへ貢献する

- ・万博、IRの誘致や、JR桜島線、地下鉄中央線延伸(2024年度)等のアクセス強化が進む**バイエリア**とつながる本町、淀屋橋の魅力アップ
- ・なにわ筋線北梅田(2022年度)～南海新今宮間整備計画(2030年度)等、**鉄路再編に備えるエリアの魅力アップ**
- ・梅田、難波のターミナルを結ぶに留まらず、**関空、伊丹、新大阪等、広域アクセスを意識した都心エリアの魅力アップ**
- ・京阪神のネットワーク強化



2. グローバルな都市間競争を意識しエリア魅力向上を図る



パリ シャンゼリゼ



ニューヨーク タイムズスクエア

3. 通過交通量の減少に伴い“人中心のみち”へ機能転換を図る

- ・自動車交通量は約40年前から約4割減少
- ・大阪都市再生環状道路の整備推進等、都心部への通過交通の流入増加懸念は将来的にも少ない
- ・**自転車通行量(平日)も約10年前から約3割減少**(2005年6,758台→2015年4,675台)
- ・御堂筋エリアの再生を目指す“人中心のみち”へ転換



大阪都市再生環状道路

御堂筋歩道(平野町)の歩行者・自転車通行量調査
1日交通量(7:00~21:00)

2005年5月

	西側	東側
平日	歩行者 8,997人 自転車 3,349台	10,453人 3,409台
土曜	2,859人 2,079台	3,458人 2,159台

2015年10月

	西側	東側
平日	7,151人 2,307台	8,352人 2,368台
土曜	3,013人 1,802台	3,821人 2,011台

御堂筋の 広場化

豊かないちよう並木、地域の歴史、文化、知的好奇心を誘う沿道の店舗やショールーム等を活かし、エリアの個性にしていこう、御堂筋を人々の往来だけでなく、**交流し、たたずむ広場のような活用**を目指します。



春、夏 緑陰のもとを心地よく歩ける御堂筋



秋 季節の移ろいを感じる黄葉の御堂筋



冬 イルミネーションで華やぐ御堂筋

1. 利便性、安全性の高いみち

・安全で快適な歩行者空間

緩速車線を歩行者空間に転換し、**ゆとりある歩行者・自転車通行帯幅15m(歩道幅5.5m+緩速車線幅5.5m+壁面後退幅4m)**の中で**安全な通行とエリアの活力創出**を図る。

・多様な交通モード(歩行者、自転車、車等)の共存

歩行者優先の歩きやすい、歩きたくなるみちとすることを基本に**自転車の通行や、車の寄りつきなど現状の交通利便性の維持**も考慮する。

2. 上質な景観による都市格の形成

・美しく、きれいなみち

ごみ、落書き、放置看板等がなく、沿道の植栽管理も**手入れの行き届いた抑制のきいた清潔なみち**とする。

・質の高いストリートファニチャー

エリアの個性を表現する要素となるストリートファニチャー等は、**フィロソフィ、スタイル、デザインにこだわりトータルコーディネートされた上質なもの**とする。

3. 憩える・楽しめる快適なみち

・木陰の『憩い』スペースづくり

新緑、黄葉を楽しむ木陰のベンチ、オープンテラス等の**憩いの空間を創出**する。

・木陰の『交流』スペースづくり

路上のカフェテラスやキオスク、情報スタンド等による**交流拠点を創出**する。

・『花とみどり』のGALLERY

平野町街園の整備はじめ、手入れの行き届いた植栽帯の管理、官民連携した植栽コンテナガーデンの整備、管理を推進する。

4. 交流、知的刺激のあるみち

・御堂筋GALLERY

年間通じて沿道のどこかで何か**が催されている知的刺激に溢れるみち**、時代をリードする新たな取組み、実証実験等の場として活用され、話題の絶えないみちとする。

1. エリアの資産を継承、活用する

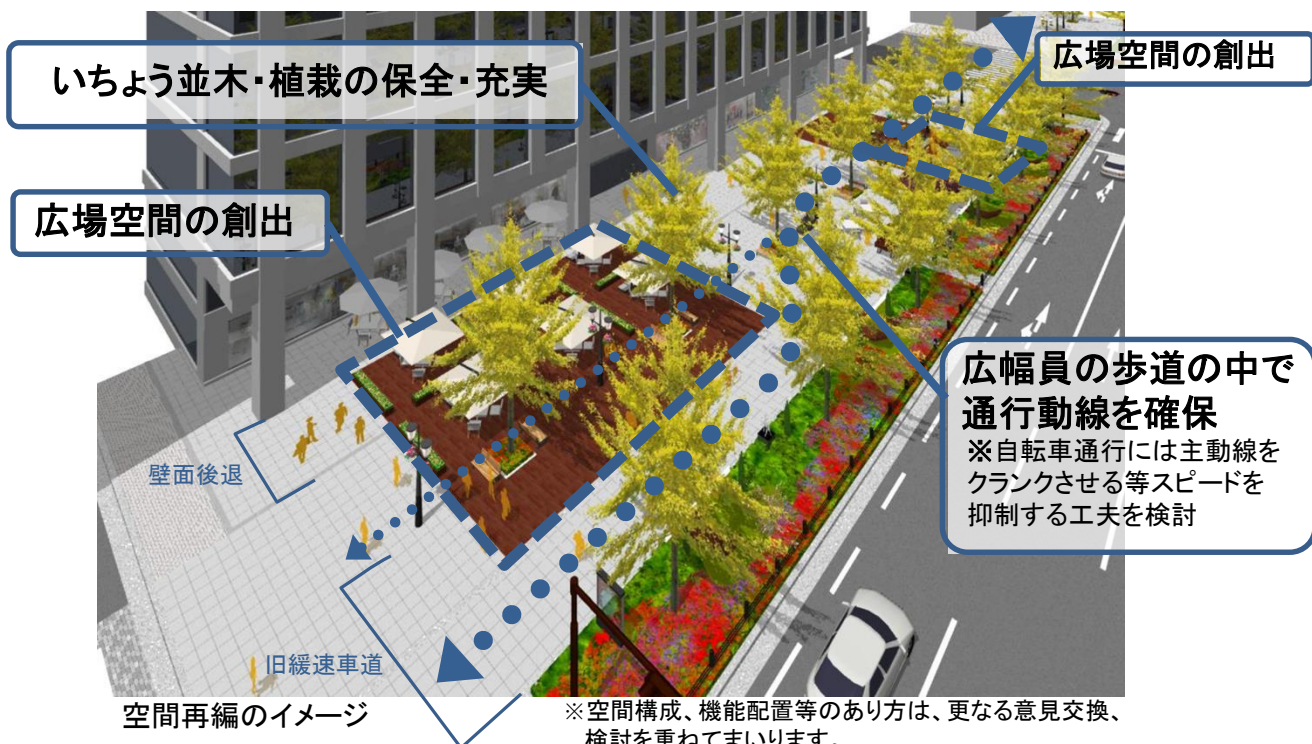
- ・御堂筋の象徴に相応しい「**豊かないちよう並木**」として守り育てる環境をできる限り実現する。
- ・軒線のそろった調和のとれた沿道建物からなるパースペクティブな都市的スケールの**風格ある中景、遠景を維持**しながら、歩行者の目線に近い**近景は、緩やかなルールに基づき、まちの変化や、にぎわいを感じられる活力ある景観**とする。
- ・船場の歴史、地域文化や、沿道のブロンズ彫刻等、**エリアの貴重な地域資産が実感できる個性豊かな環境**とする。

2. 憩い、交流ができるまとまった広場空間を創出する

- ・**緩速車道を歩行者空間化し、歩道(歩行者・自転車道)を現状幅員5.5mから11mへ拡幅**する。
- ・広幅員の歩道に加え、沿道の**壁面後退空間(幅員4m)も一体的に捉え、その中で必要な通行動線を確保**するとともに、**新たなエリアの魅力向上の拠点として、まとまった広場空間を随所に創出**する。

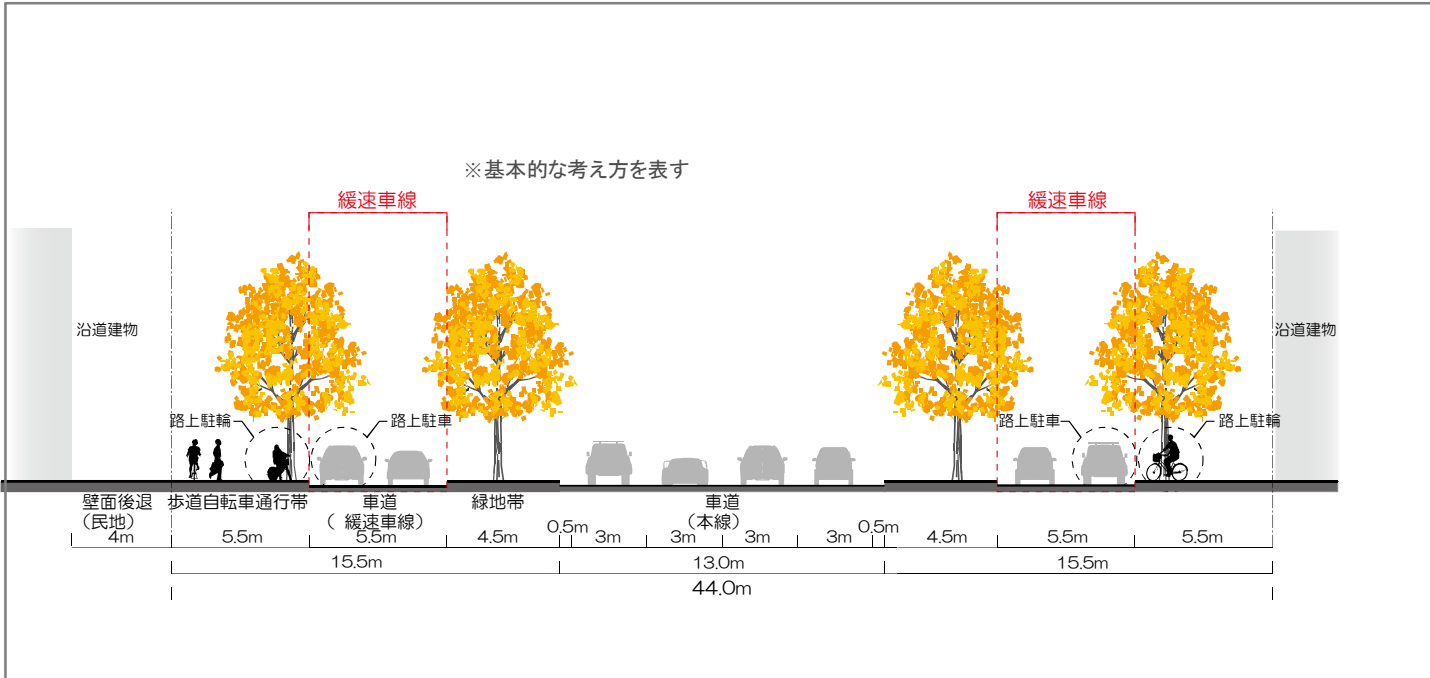
3. 広場空間を拠点に新たな魅力を付加する

- ・アーチ状のいちよう並木の間をそぞろ歩き、いちようの足元のベンチで憩い、広場空間のにぎわいに知的刺激を満たすような空間活用を推進する。
- ・災害時には、広場空間を一時避難場所として活用する等のエリア防災上も機能する空間とすることも合わせて検討する。
- ・そうした空間活用を永続的に維持管理を行うために、**官民連携による仕組みづくりや、必要な規制緩和**などを検討する。

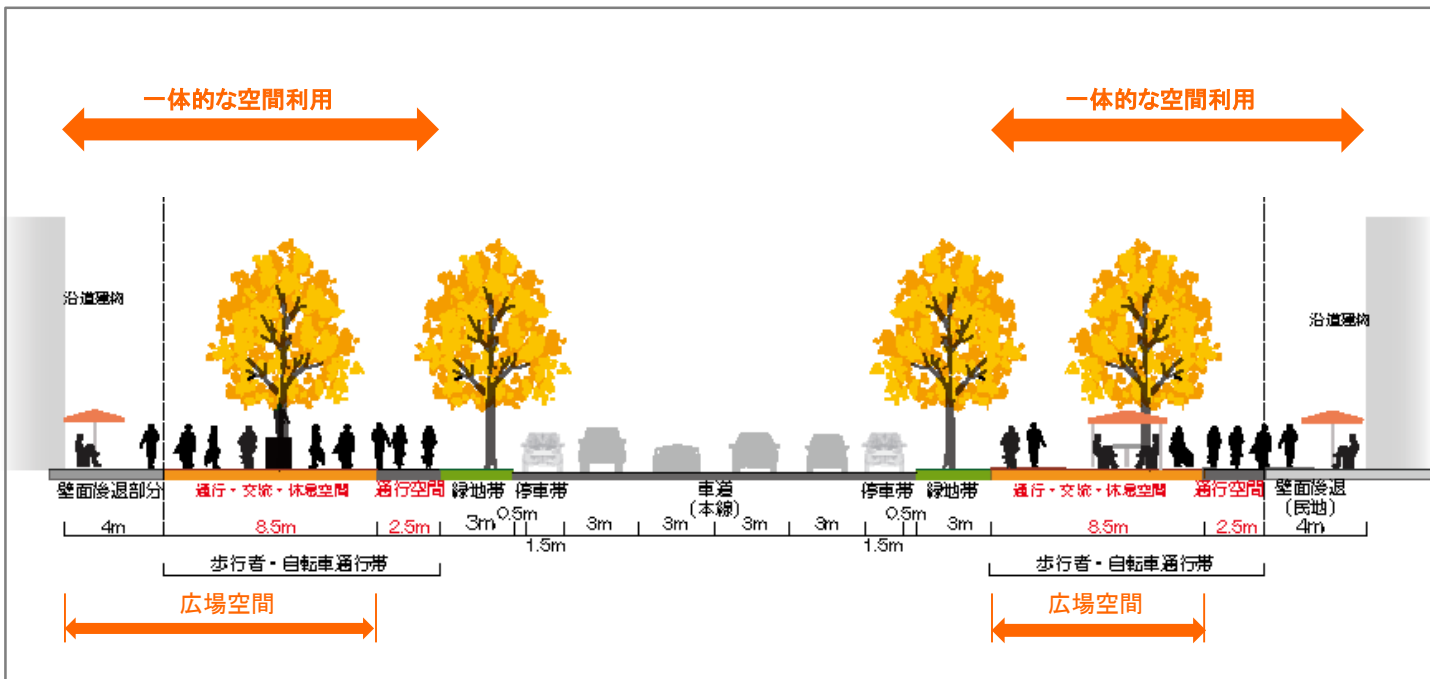


断面構成イメージ

現状



空間再編イメージ



御堂筋完成85周年(5年後、2022年度)ころの空間イメージ

参考)2021年度 関西ワールドマスターズゲームズ、中之島に(仮)大阪新美術館、(仮)再生医療国際センター開設予定
2023年度 うめきた2期まち開き、(仮)北梅田駅開業予定



空間再編のイメージ



空間再編のイメージ (いちょうで隠れている部分)

※空間再編後、その成果として来街者が増えることにより新たな交通問題等が生じた場合も、可変性があるので再編成が可能

沿道店舗のテラス席利用をイメージし 壁面後退部分と一体的に設けた“広場”



沿道店舗と一体的にまとまって設けられたテラス席



主要交差点舗に定期的にメンテする広告付き地図情報パネル

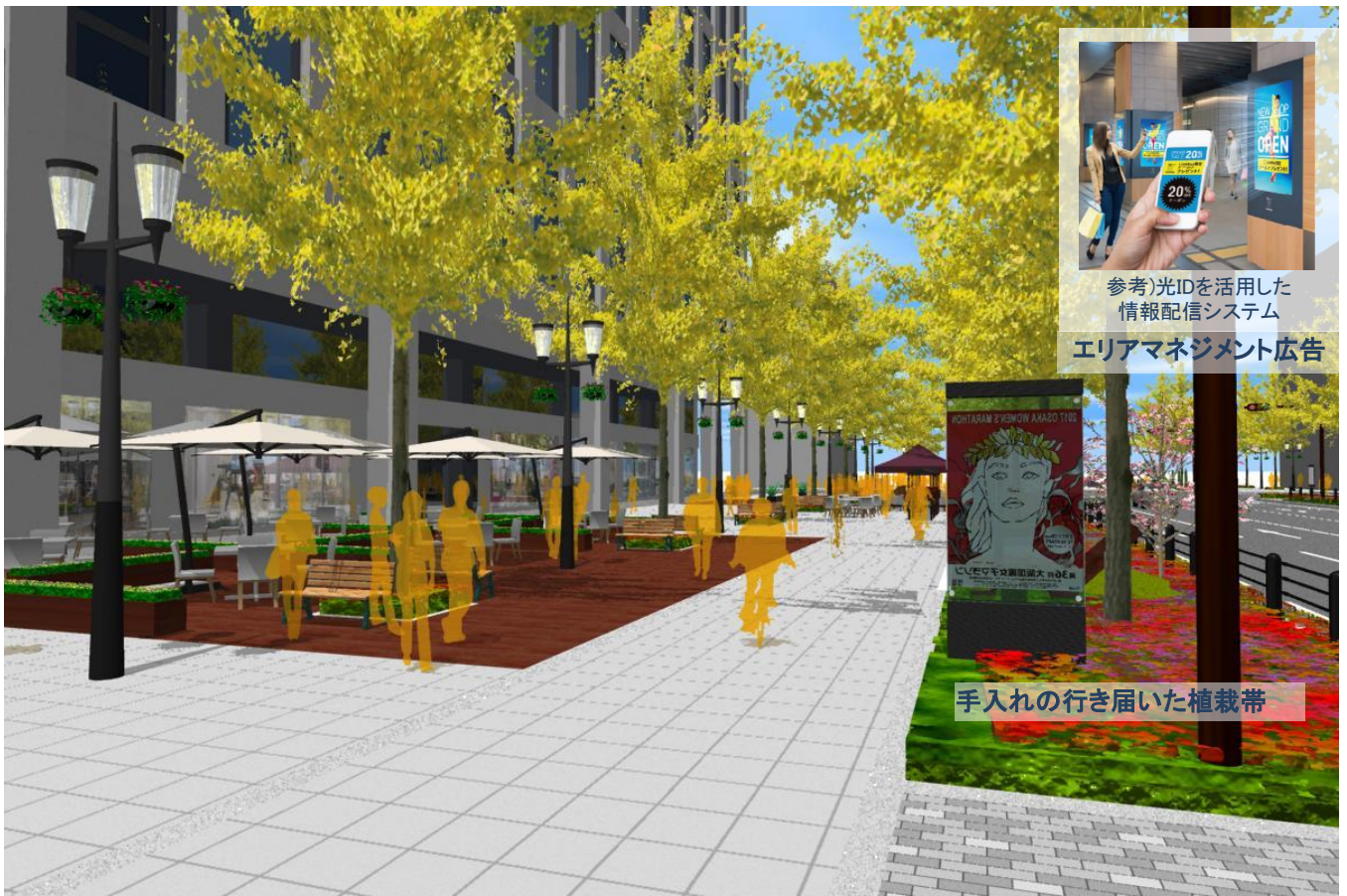


ウッドデッキの歩道



緩やかに区画され落ち着いた座りやすいテラス席

いちよの足元にゆったりとした憩い空間を設けた“広場”



憩いと通行の空間イメージ



植栽帯に立つエリアマネジメント広告



歩道に立つエリマネ広告



手入れの行き届いた彩りある植栽帯

ふだんは通行空間でありながら イベント空間としても利用できる“広場”



チェスを楽しむ



フリーマーケットを散策する



屋外ステージ



夏祭り



新車発表会

車道寄りにショップ等のにぎわい施設を設けた“広場”



まちに彩りを添えるハンギングフラワー



オブジェ化したパラソル
一体型テーブル



ベンチでリラックスして語る人々



デザインされたバナー広告



ハイラインのリラックスベンチ

御堂筋オータムギャラリー2016

（御堂筋ピクニック10/19-21、沿道東側の1ブロックで実施）



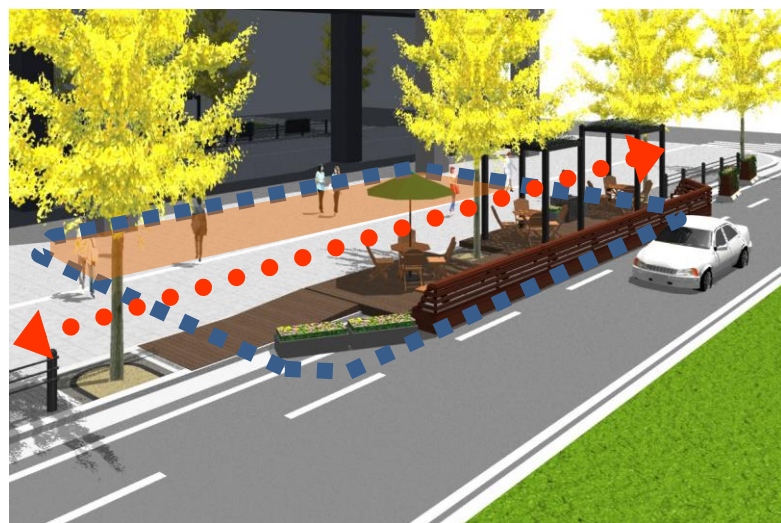
●実施成果

- ・壁面後退と いちょうの足元空間の一体的な空間活用により、ふだんと異なるにぎわい創出ができた
- ・通行への著しい悪影響、混乱はなかった

●課題

- ・御堂ネット自身が企画実施できる規模、期間、グレード等は、現状が限界。
- ・実施できるスペースが少ない他、電気、給排水、照明、トイレ対応ができない等の空間的制約がある
- ・広告規制や、営利行為の制約、酒類販売の禁止等の出店者ニーズに十分応えられない運用上の制約もある

（仮称）御堂筋パークレット2017



●実証実験で検証したいこと

- ・約半年近い長期の実施による認知度、活用度合について検証
- ・いちょうの足元空間が緩速車線側へ約1.4m 広がることによる活用効果の検証
- ・カフェ、モニタリング、催事等、出店者から応分の負担金を徴収するしくみの検討
- ・広告枠の設置と広告料収入による管理運営のしくみの検討
- ・維持管理上の課題抽出 など

将来イメージ(07ページ参照)



ベンチの管理費用に充当することを想定したエリアマネジメント広告の設置イメージ